

沖退教だより

第24号

連帯 平和 親睦

沖縄県退職教職員会

会長 仲村勝彦

〒900-0015

那覇市久茂地3-9-23

教育会館内

☎ (098) 867-0161 (代)

FAX 098-863-2026

辺野古

新基地阻止のための

任意カンパのお願い

辺野古に新しい基地は絶対に造らせないと固い決意のもとにスタートしたシュワブゲート前での座り込み行動から400日以上が経過しました。昨年7月のキラキラ輝く真夏の太陽の下での約20〜30人の行動が始まりました。沖縄県民は名護市長選挙や県知事選挙、衆議院選挙で「辺野古新基地建設は絶対にダメ」だとの民意を圧倒的勝利で示してきました。県知事選挙では「県外移設」の公約を破棄して辺野古埋め立てを承認した前知事に対して約10万票もの大差をつけての圧勝でした。

しかし、政府は沖縄県民の民意を全く無視し、反対行動

に参加している市民らに対して海上保安庁や県警、軍警が許し難い暴力的な排除を繰り返しつつ工事を強行しています。

任意カンパの要領

- 1 目的：辺野古新基地建設阻止の為に各支部行動費
- 2 カンパ額：任意
- 3 取り組み期間：10月末日まで
- 4 カンパの集約：支部毎に集約
集約方法は各支部に一任
本部への提出は不要
- 5 カンパの用途：それぞれの支部で活用する

座り込み行動への県内外からの共感は一日に広がりをみせ、今では毎日1000人前後が参加しています。

私達沖退教も昨年7月の理事会で「各支部から行動に参加することを確認して以降、多い日には40人前後、少ない日には5人前後と毎日のように行動に参加し、これまでの延べ参加者は約4000人を超えています。中頭や那覇、島尻は現職の支部車を借用したり、自家用車を利用して高速道路を通って参加しています。車の燃料代、高速料金もかなりかかっています。また、行動の長期化も予想されることから、本会として上記のような要領で、会員に任意カンパをお願いすることにしました。無理にならない程度の協力がいただければ幸いです。絶対に勝利しましょう。

戦争法案は廃案へ

辺野古新基地阻止と共に

安倍政権を退陣に

安倍政権は去る7月16日に、地球の裏側まで自衛隊が出かけて行って、米国をはじめとする同盟国との集団的自衛権の行使を可能とする安全保障関連法案（戦争法案）を衆議院本会議で強行可決しました。この法案には憲法学者をはじめ弁護士、大学人、教育者、労働者、市民、女性、学生等

国民の幅広い層の人たちが憲法違反だと声をあげ、国会周辺をはじめ、各県レベルでの抗議集会やデモが展開されています。国会周辺では10万人規模の大集会も開かれ、「戦争法案反対」の声が増しに高まり、支持率30%台と安倍政権を窮地に追い込んでいます。

沖縄でも全国と呼応して何度となく抗議集会を開き、市内をデモ行進して法案への反対をアピールしてきました。同法案は現在参議院で審議中ですが、全国の仲間達と連帯して法案を廃案に追い込み、同時に、辺野古新基地建設を阻止して安倍政権を退陣させましょう。

沖国大へリ墜落で

集会とデモ

8月13日は沖国大へのへリ墜落から11年目にあたることから、同日の午後5時30分から宜野湾市役所前広場で抗議集会が開かれました。政府は口を開けば「普天間の危険性除去」を繰り返しますが、オスプレイ24機も強行配備したうえ、輸送機などの離発着も頻繁にあり、危険性は放置されたままです。

前日にはMH60ヘリがうるま市沖に墜落し、参加者は石平の司令部前までの約2キロで怒りのデモ行進をしました。



安保法案に反対する県民集会(7.31)



島袋史子さんも
車椅子で参加

工事中断に警戒を



「座り込み1年で新・旧ゲートを包囲

政府のねらい

体制直しと切り崩しか

菅官房長官は、8月4日に突如「8月10日から9月9日までの1カ月間辺野古での作業を中断する」と発表しましたが十分な警戒が必要です。県民の立場に立つての中断ではないことは明らかです。菅官房長官も「集中協議の中で政府の立場を理解してもらえ

るように説明していく」と言っています。支持率が30%台に落ち込み、政権維持も危ぶまれる中、支持率回復のきっかけを作り、体勢を立て直すことと同時に運動の切り崩し・県民分断を狙ったものだと考えるべきです。

これまでの2回の集中協議で明らかなのは、翁長知事や稲嶺市長との協議では時間もそれほどかけずに切り上げ、容認する側との話し合いには倍の時間を割いています。埋め立て強行に向け外堀を埋めていると警戒する必要があります。

9月末に行われる予定の翁長知事の国連演説では、戦後

70年もの間、米日両政府が沖縄県民に対して取り続けてきた「植民地的、差別的、非民主的な不条理」が国連の場において全世界に明らかにされるはずですが、両政府にとつては心穏やかではないはずで、「中断」を打ち出すことによつて翁長知事の軟化を狙っているとも思われます。

沖退教は中断期間中も気を緩めることなく、これまで同様の参加体制を維持することを確認しました。新基地建設は絶対に阻止しましょう。

**辺野古工事再開を断念させる
県民集会への参加を**

日時：9月5日（土）
午後2時～

場所：シュワブゲート前
※駐車場は二見の旧道近く

第46回 定期総会

全支部から73人が 上里・大嶺両副会長が退任

本会の第46回定期総会が去る7月14日の午後2時から沖教組会館3階ホールで開催され、73人が参加しました。6月25日には宮古支部の待望の再結成もなされ、今総会には全ての支部が参加しての「沖退教の一体感」を感じさせる総会となりました。「役員

改選」ではこれまで誠心誠意本会発展の為に尽力していた上里副会長と大嶺初子副会長の退任がありました。両副会長には総会の場で、本会から感謝の意を込めた記念品と花束が贈られました。上里副会長はリハビリ中で、おつれあいの愛さんに受け取っ

てもらいました。

大嶺副会長の後任には、国頭支部の宮城玲子さんがあたることになりました。上里副会長の後任は人選中です。事務局次長は現職の沖教組書記長にお願ひしていて、今回は佐賀裕敏さんが引き受けてくれました。会長をはじめ他の役職は辺野古が重要な場面にさしかかっていることから引き続き頑張ることになりました。

間毎月辺野古での座り込み行動に参加する決定をしています。7月6日には東京、神奈川等を中心に32人が参加しました。

テント小屋では、竹田事務局長をはじめ各県の代表者が次々と決意表明をし、ゲート前での行進や抗議行動も共し、カンパの手交もありました。翌日は高江での連帯行動に参加しました。

5日の晩と6日の晩には那覇と名護で沖退教・高退教役員との交流会ももたれました。



退任挨拶をする大嶺副会長(右)と上里副会長の代理の愛さん

15・16年度本部役員

会	長 :	仲村 勝彦 (再)
副	会	長 :
副	会	長 :
事	務	局
事	務	局
幹	事	
会	計 :	

日退教

辺野古・高江行動に 32人が参加(7月)

日退教は、第1クールとして5月から10月までの半年



ゲート前抗議デモでの日退教参加者